

海にひらこう岩手の国際化プラン

～ 国際港湾都市と地域背後圏との連携計画 ～

概要版

海にひらこう岩手の国際化プランとは

市民との協働による国際的な“まちづくり”と“人づくり”を促進
海・みなとを核とした視点から内陸各市町村との連携をはかる

大船渡市は、海・港から発展してきた町です。そして今、多目的国際ターミナルの建設や県内初となる外貿コンテナ船定期航路の開設など国際港湾都市づくりの取り組みが進んでいます。本プランは、大船渡市はじめ沿岸地域と内陸の各市町村とが連携し、情報交換や交流を図りながら文化、生活、産業、観光などについて相互理解を深め、港湾を核とした海からの国際化、国際的なまちづくり、人づくりを目指すものです。

市民の知恵と情熱、力を結集。新しいみなとまちづくりへの取り組みを担う原動力が芽生えました。

子ども記者の大船渡港取材
シンポジウム、
先進地視察
有識者委員会、
多様な市民との意見交換会
アンケート調査
ワークショップ
フォーラム等

地域間交流

都市の活性化

商工業振興

みなとまちづくり

観光物産振興

人材育成

大船渡市

まとめ

「海にひらこう岩手の国際化プラン」の作業成果を以下にとりまとめます。

ポイント

協働のまちづくりを進める市民団体が誕生！

「海にひらこう岩手の国際化プラン」は、港湾を核とした海からの国際化、国際的なまちづくり、人づくりを目指すものです。

また、市民活動の協働によって各地域の多様な主体が、身近なテーマについて、自主的・主体的に協働して地域振興に取り組める仕組み作りを促進するものです。

そのため、市内の各種市民団体、県内のNPO等との意見交換会、シンポジウム、ワークショップ、フォーラムを行いました。それぞれに多数の市民団体が参加。国際港湾都市づくりを目指す大船渡のみなとまちづくりについて、活発に意見・提言を出していました。

「これらの作業を通して市民の知恵・情熱・力を結集して新たな「みなとまちづくり」を進める「大船渡みなとまちづくり推進協議会」設立準備会が結成されました。

ポイント

ワークショップでみなとの宝を再発見！

「大船渡みなとまちづくり推進協議会」設立準備会の主要メンバーである（社）大船渡青年会議所が中心となつて、「見直そう、港の宝」ワークショップを開催。市民五〇人が参加して、「宝マップ」と「課題マップ」を作成しました。

「大船渡港は、中心市街地と港が近接している」、「天然の良港で大型船舶も入港できる」、「素晴らしい景観を持ち、ビューポイントがいくつもある」などの意見が出された。一方、課題としては、湾内の水質汚染に対する懸念やせつかくの宝が有効に活用できていないこと等が指摘されました。

今後、作成した二つのマップをもとに現地調査を行い、市民自らが考え行動してゆくことを確認。また、市民団体が「みなとまちづくり」に強い意欲もつていることを再確認しました。

ポイント

内陸市町村との連携を強化。情報を集約、発信するサテライトを設置

盛岡市・北上市・江刺市・平泉町・関市の有識者、市民団体代表者らで委員会を設置。内陸各市町と大船渡との交流と連携を強化する方策や新たな観光ルートの開拓について協議しました。

また、委員会を通して交流が生まれた一関市の「まちな駅」、江刺蔵町千丸つなぎ温泉（盛岡市）等に地域情報を集約・発信するサテライトを設置しました。

ポイント

未来をになう子どもたちの育成

「子ども記者による「国際港湾都市」大船渡港の取材と国際交流会を実施。観光船で湾内を一周するとともに、港湾の重要性、諸外国との貿易や交流の歴史などを学びました。

「大船渡の港は世界の港へつながっているんだなあ」

「このことに気づいたことが子どもたちに新鮮な感動を与え、素晴らしい学校新聞がたくさん制作されました。」

ポイント

交流と連携により地域活動を活性化

大船渡市内の各市民団体は、これまで様々な活動を展開してきました。活動内容は多岐にわたり、市民に浸透した活動を数多くあります。しかしながら、各団体単位にとどまっていることから多くの市民が関わる活動には至っていませんでした。

今回の作業を通して、岩手県内・県外の先進的なNPO等の活動を視察、交流することによって新たな連携が生まれ、地域の活動が活性化しました。

ありがとうございました。 <ご協力いただいた団体等>

（社）大船渡青年会議所、大船渡まちづくり塾、大船渡ヨット協会、三陸グランダース、大船渡商工会議所青年部、大船渡国際交流協会、（仮称）大船渡みなとまちづくり推進協議会、岩手大学国際交流センター、NPO 法人いわてNPO フォーラム 21、NPO 法人いわてマリンフィールド、NPO 法人小名浜みなとまちづくり市民会議、「大船渡・みなとまちづくりシンポジウム」、「同ワークショップ」、「同フォーラム」参加者、「子ども記者による大船渡港取材」参加小中学校等